巻頭特集

子どもたちの
笑顔を支える
地域の情熱

たじみの子ども食堂

コロナ禍においても、食事を通じた支え合いを
このまちに広げている頼もしい人たちがいます。
誰かとちょっとお喋りしたいとき。
食事の支度が大変で、頼りたいとき。
地域のために、何か協力したいとき。
どの子ども食堂もおいしい食事を用意して、
皆さんの訪れを温かく待っています。

Children's Cafeteria 01

多治見修道院を拠点にほっこり幸せな時間を共有

やこ&もこの家 福ちゃん食堂

会長 三浦眞理子さん

「子どもと大人の居場所や交流の機会づくりを大切にしています」と話す三浦さん。第2土曜日に、多治見修道院のログハウスで食事の提供、弁当や物資の配布を実施しています。ログハウス内では交流の一つとしてぬり絵を展示。修道院の敷地内にある畑を借り、農業体験の機会も提供しています。「来てくださる皆様と、ほっこりした時間を過ごせるのがうれしい。手づくりのご飯やお弁当を『おいしい』と言いながら笑顔で食べていただけたときには、やりがいを感じます」と笑います。

ボランティアスタッフ26人で運営していますが、コロナ収束後には高校生ボランティアとの交流を再始動する予定。岐阜県栄養士会と連携した食育活動の構想もあり、実現に向けて期待が高まります。

福ちゃん食堂でほっこりしませんか

五目ご飯に使われているタケノコは修道院の裏庭で収穫。まさにとれたての味わいです

修道院のログハウス内には、子どもたちの力作がたくさん並んでいます

Children's Cafeteria 02

手づくり弁当と共に見守りという安心を届ける

多治見市小泉校区 ニコニコ食堂

代表 田口嘉孝さん

「小泉公民館でラジオ体操をする「健康部会」がもとになって生まれた子ども食堂です。2018年のスタート時は、第1木曜日の夜に予約不要の食堂形式で行っていましたが、コロナ禍の現在は毎月最終土曜日に弁当配布する形に変更。子どもを連れて、会話を楽しみに参加する母親が多かった以前と比べると、現在は一人暮らしの高齢者の利用が増えています。父親が受け取り、持ち帰って家族で食べるケースもあります。

「以前参加してくれていた人が来なかったときには、『大丈夫?』と声を掛けるなど、つながりを大切にしています。一人で悩んだり孤立したりせず、気軽に来てほしい。地域や近所との関わりを感じてほしい」と田口さん。会話を通じた心と心のふれあいが、ニコニコ食堂にはあります。

リピーターになってくれるのがうれしい

春を感じるチラシ寿司が目を引く弁当。高齢者向けに、柔らかく調理しています

健康部会のメンバーを中心としたボランティアが地域のためにと尽力しています

Children's Cafeteria 03

「地域に元気を!」。休耕田の活用から始まった子ども食堂

笠原未来プロジェクト ぞんがぁえぇのう ふれ愛食堂

事務局 長江弓子さん

「ふれ愛食堂のきっかけは、実は農業。休耕田を活用し、丹精込めて育てた野菜を生かして交流を深めようとスタートしました。民生委員、児童委員、栄養士、教員、元保育士など、個性豊かなメンバー20人弱が活躍しています。コロナ禍前はみんなでワイワイ食事をしながら、夏休み、冬休みといった長期休暇時には先生に勉強を見てもらう機会もありました。

「将来的には、学校の近くで活動できるようになればいいなと思っています」と意欲を見せる長江さん。午前中は高齢者のサロン、放課後には子どもたちの遊び場、おやつに夕飯の提供と、誰もが利用しやすい形を模索します。「ぞんがぁえぇのう」から、「どぉらぁえぇのう」なふれあいの場になる日は、きっと遠くありません。

「おばさん!」とまちで声をかけてもらいました

旬の食材を使うだけでなく、食物アレルギーに配慮してくれるのが◎

収穫した農産物を、グリーンフェスタたじみに提供したこともあります

Children's Cafeteria 04

地域の憩いの場であるカフェだからこそできる地域貢献

まごころ食堂実行委員会

代表 海津健一さん

「第3土曜日にまごころ食堂を開催しているのは、明和町のまごころカフェ ハニー・ハウス。長年の夢だったカフェの開業にあたり、最初から子ども食堂の実施を想定していた海津さんは、2019年の開店から半年後にはまごころ食堂を、さらに翌年4月にはフードバンク活動を始めました。新型コロナの影響で、カフェの経営自体厳しい状況ですが、コロナ禍でも休まないことと、イートインにこだわってまごころ食堂を継続しています。

「フードバンクの利用で、1日の食事が1回から2回に増えた家庭も。必要な家庭はぜひ連絡ください」と呼びかける海津さんは、さらなる地域貢献のため、高齢者が住みやすいまちづくりを検討中。地域の憩いの場所は、これからも地域の課題に真摯に向き合います。

子どもたちと仲良くなれた瞬間が喜びです

まごころ食堂のメニューはカレー。ハニー・ハウスでも大人気です

食事の提供以外に、自習場所の提供と勉強のサポートもしています

Children's Cafeteria 05

おばあちゃん家のようにホッとくつろげる居場所を

こどもにじいろ食堂

代表 中島芳枝さん

「精屋根の平屋が目印のこどもにじいろ食堂。「自分の子どもが不登校になったとき、子どもには逃げ場がないと気づきました。以前は学童保育に使われていたこの家と出合い、温かい食事が待つ子どもの居場所になれたらと始めたんです」と中島さんは笑みを浮かべます。

第2・第4日曜日、手づくりの弁当と共に配布するのは、企業や地域の有志が届けてくれた米や野菜など。3月で開始から1年を迎え、今後の目標は夕方の学習支援と、夕食時に子ども食堂を開くことです。「誰かに頼るのは悪いことではありません。子どもの笑顔のために、親さんの心がホッとできる時間を大切にしてほしい」。中島さん自身も子どもを育てる母として、地域の子育て家庭に寄り添い続けます。

夕食時にボランティアできる方募集中です

優しい味の弁当には、「食べてホッとしてほしい」という願いが込められています

学習支援として勉強を教えているほか、パステル画教室も行っています

Children's Cafeteria 06

2000食を振る舞うイベントを開催 子ども食堂のイメージを変える

あべべ食堂

代表 小島佑摩さん

「2021年6月にオープンしたスパイスファクトリーあべべが営んでいます。10年以上前、インドで長期ボランティアをしていた小島さん。地元に出店するにあたり、「人の役に立つことをもっとしていきたい」という思いを実現しました。

取り組みの周知と理解の促進のため、今年1月には、通常の子ども食堂の6倍規模となる2000食のカレーを無料で振る舞うイベントを開催。「あべべ食堂の永続的な開催」を夢見る小島さん。「1店舗では限界があるので、僕自身がロールモデルとなり、子ども食堂の輪が広がっていけばと思います」と話し、支援の多様化に願いを込めます。現在移転準備中のため、子ども食堂も中止していますが、5月下旬のリニューアルオープンに合わせて再開予定で、新店舗での開催が待ち望まれます。

インスタで最新情報公開中です

時間内に来店した人全員へ無料で配布するカレー。小島さんの心意気が伝わってきます

1月のイベントは多数のメディアで取り上げられ、活動が広まるきっかけとなりました

information

やこ&もこの家 福ちゃん食堂

開催場所 多治見市緑ヶ丘38 多治見修道院ログハウス
開催日 毎月第2土曜日 11:00〜受け渡し
問い合わせ 070-2211-8944(代)
費用 子ども無料、大人300円

多治見市小泉校区 ニコニコ食堂

開催場所 多治見市大原町7-86-1 老人憩いの家23区会館
開催日 毎月最終土曜日 12:00〜受け渡し
問い合わせ 090-5119-1235(田口さん)
費用 3歳以下無料、中学生以下100円、一般300円

笠原未来プロジェクト ぞんがぁえぇのう ふれ愛食堂

開催場所 笠原中央公民館
(多治見市笠原町2081-1)※弁当配布の場合
開催日 毎月第4土曜日 11:30〜受け渡し
問い合わせ 090-2577-1233(長江さん) 費用 100円

まごころ食堂実行委員会

開催場所 多治見市明和町3-3(ハニー・ハウス内)
開催日 毎月第3土曜日 11:30〜13:30
問い合わせ 0572-74-2160(ハニー・ハウス)
費用 子ども50円、大人250円

こどもにじいろ食堂

開催場所 多治見市精華町47-2
開催日 毎月第2・第4日曜日 12:00〜受け渡し
問い合わせ 090-4254-3604(中島さん)※18時以降
費用 子ども100円、大人300円

あべべ食堂

開催場所 多治見市本町2-49-7
開催予定日 毎月第1金曜日16:00〜19:00
問い合わせ 080-6244-1188(スパイスファクトリーあべべ)
費用 無料

文/髙崎千紗登　デザイン/chica